SOCIAL

コロナ禍だからこそ新たなつながりを「フードパントリー茨木」

茨木市で生活困窮世帯などに食料を無料で提供する「フードパントリー」が行われている。始めたのは、ボランティア団体「フードパントリー茨木」代表の宮野剛志さん。もともとは2016年から毎月1回、地域の子どもらに、居場所や食事を提供する「子ども食堂」を茨木市内9か所で開催していた。しかし昨年3月、新型コロナ感染拡大の影響で会場だった市の施設が使用禁止に。子ども食堂も以前のようには開催できずにいた。

コロナ禍で支援が必要な家庭は増えているはず。何かできないかと考えていたとき、偶然インターネットで「フードパントリー」の仕組みを知り、すぐに知り合いの社会福祉士に相談。思い立ってから約3か月後の昨年11月、市立男女共生センター「ローズワム」（茨木市）で1回目の開催にこぎつけた。

同団体では、毎月2回、食料などを集める「回収日」を設けている。回収日には、地元の人や食品関係の企業から物資が集まるほか、「近所でやってないから」と他市から足を運ぶ人も。6月13日の回収日にはおよそ25組が訪れ、米やレトルト食品など食料を中心にティッシュやマスクなど生活用品も集まった。これらを約10人のボランティアスタッフで35世帯分に仕分け、後日、事前予約のあった家庭に提供する。宮野さんによると「どの程度コロナの影響かは分からないが、今年2月頃から『食べるものがない』という連絡が増えた」という。緊急のケースは、できる限りその日に備蓄分から物資を直接届けに行き、行政などの支援が届いているか確認。必要があれば市の担当者などへつないでいる。

（上）代表の宮野剛志さん（撮影時のみマスクを外しています）
（右）受付では氏名など記入の上、検温を実施

活動を通して「いろんな事情を一人で抱え込んでいる人がたくさんいると気づいた」という。今年4月、3度目の緊急事態宣言が出されたときには、車で一軒ずつ物資の回収に回るなど感染症対策の上、これまで途切れることなく活動を続けてきた。

今後はより多くの人へ支援が届くよう行政と協力しながら活動を広げる予定だ。宮野さんは「物資の提供はきっかけにすぎない。人と人とのつながりが分断されるコロナ禍において、新たなつながりを生み続けるよう活動していきたい」と話している。

常設の回収場所など詳細は同団体HP（https://foodpantry-ibaraki.jimdofree.com/）で確認できる。

コラム／COLUMN

梅花から「令和」を込めて

桃の実エピソード

「桃の実」に連想される昔話を尋ねたら、多くの方は「桃太郎」をあげられるのではないでしょうか。さらに古く、712 年に成立した『古事記』には、神話の中に、イザナギの神が妻のイザナミの神を、黄泉（よみ）の国へ迎えに行った話を見つけることができます。

イザナギの神がイザナミの神に、二人で生んだ国がまだできあがっていないので、帰ってきて欲しいと頼みます（生き返ることを「黄泉がえる」といいますね）。イザナミの神は、この国で食事をしてしまったので、もう帰ることができないと答えます（「同じ釜の飯を食う」なんて諺が思い出されます）。しかし、せっかくここまで迎えに来てくださいましたから、私も帰りたいと思います。他の神々と相談してくるので、戻るまで、決して私を見ないでくださいと頼みました。イザナギの神は待ちましたが、いつまでたっても声がかかりません。とうとう我慢ができなくなってしまいます。火を灯して戸を開けてみると、見るなと言われていたこと。蛆のコロコロたかった、イザナミの神の姿を見てしまうことになります。思わず逃げ出してしまったので、イザナミの神は「恥をかかせた」と怒り、追っ手をかけます。イザナギの神は逃げながら、髪飾りを外して投げると山ブドウの実がなりました。櫛の歯を折って投げるとタケノコが生えました。追っ手がこれらを食べている間に逃げます。最後は剣を後ろ手に振りまわしながら、黄泉比良坂（よもつひらさか）というところにたどり着きます。ここに桃の木が生えていました。実を投げつけると、追っ手は退散します。そこでイザナギの神は桃の実に、「おまえは私を助けたように、この国に住む人々が苦しんで困っている時に助けよ」と言って、オオカムズミの命（みこと）と名付けられました。

桃の木は、厄除けに利用されていたことがわかります。その実の効果は、物語のとおりです。桃の実には不老不死等、薬として利用された話もあります。店頭で見つけたらこの記事を思い出してください。イザナギの神とイザナミの神に会えるところは、吹田市の伊射奈岐神社をご紹介したことがあります。

TEXT

梅花女子大学教授　市瀬 雅之

現代訳から原文までを用いて『万葉集』に文学を楽しむほか、『古事記』や『日本書紀』等に日本神話や説話、古代史をわかりやすく読み解く。中京大学大学院修了 博士（文学）。
著書に『大伴家持論 文学と氏族伝統一』おうふう 1997年、『万葉集編纂論』おうふう 2007年、『北大阪に眠る古代天皇と貴族たち 記紀万葉の歴史と文学』梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット 2010年。ほか執筆・講演・講座多数

FM COCOLO × CITYLIFE ／ 音楽のCOCOLO Vol.25

FM COCOLOの人気DJが季節やテーマに合わせた音楽を紹介。

radiko なら、パソコン・スマートフォンでFM COCOLOが無料でクリアに聴ける!

FM COCOLO WHOLE EARTH STATION

中国の「今」を代弁するアルバム

ALBUM
インディーの美
ー
ARTIST
サラ・リュウ

梅雨明けが待ち遠しい今日この頃ですが、皆さんは変わらずお元気にお過ごしでしょうか？　近年の華流は、アーティスト自身のやりたい音楽の方向性を、明確に提示できている人が多いのも特徴かもしれません。中国を代表する女性シンガー、サラ・リュウは2009年のデビュー以来、常に中国のメジャー音楽シーンでセールス的な成功を収めてきました。新たな挑戦としてアメリカのロサンゼルスに渡り、オープンリール・テープによるアナログ・レコーディングを敢行した音楽活動10周年記念アルバムが『硬石之美』。プロデューサーに、中国のインディーズ音楽を20年以上に渡って牽引してきた「P.K.14」のフロントマン楊海崧を迎え、中国のメジャーとインディーズを融合した革新的なサウンドを生み出した話題作です。

軽やかなメロディに、ポップな美しい歌詞の世界感が絡み合うサウンドは、まさに中国の「今」を代弁する象徴と言えるでしょう。ぜひこのアルバムを聴いて、晴れやかな気持ちで初夏を迎えましょう！

サラ・リュウ / 中国広東省の深圳（シンセン）出身。中国を代表する女性シンガー。近年はボランティア活動に積極的な献身を続けており、世界トラ保護会議「トラサミット」のイベントに唯一招待された中国人アーティストとして、自らの音楽で森林伐採や密猟を防ぐキャンペーンを支援している。

SELECT DJ

李佳
リカ

8月22日生まれ O型。
中国遼寧省瀋陽市出身、2004年に来日後、テレビ、ラジオなど多数出演し、現在中国語講師、ナレータ、通訳者として多方面で、活躍中。
担当番組は『COCOLO Earth Colors -CHINESE-』（火曜20:00-21:00）をゴ・キンセンと担当。

俳句／HAIKU

5月25日締切りでご投句いただいた中から、山口昭男先生に入選作品を選んでいただきました。

【優秀賞】

薫風や折鶴ひとつ飛ばそうか　豊中市 小倉 佳子

夏の初めの爽やかな風。そんな風に出合うと何かをしたくなります。作者は飛ぶことなど無い折鶴を飛ばそうと思った。きっと折紙の鶴も気持ちよく初夏の風の中を飛んでゆくことでしょう。

【入選】

初夏の光に重さ生まれけり　箕面市 高橋 真美

光に重さが生まれたという把握が秀逸です。季語がよく生かされています。

春愁や小さき文字の説明書　吹田市 秋山 寛

上五を切れ字の「や」にすれば最後は名詞で止める。この基本が大切です。

けんけんぱ風死してなほけんけんぱ　茨木市 廣田 静子

「風死す」が夏の季語。風が無くなって暑くなっても遊びは続きます。

鯵青し兵隊のごと整列する　茨木市 山﨑登代子

魚屋でしょうか。糶場でしょうか。比喩がたいへん面白い。

花菖蒲ながめて龍馬脱藩す　豊中市 小倉 佳子

菖蒲の花から想像しました。このような事柄は季語がすべてです。

【佳作】

夫のつく小さな嘘やわさび漬け　茨木市 廣田 静子

参道に蕊直立し落椿　豊中市 田村由紀子

目覚ましの遠きに鳴りて今朝の秋　豊中市 安藤 知明

新緑や鳥の影まで閉じ込めり　吹田市 福井 久美

薄暑光へろりと落ちるフルスビー　箕面市 高橋 真美

【つぶやき評】

例えば雨蛙を見ます。どんな色、どこにいるのか、脚や喉はどのように動くのかなどを細かく見て五七五の言葉にしていきます。ところが、何の動きもない。困ってしまいます。これがチャンス。動かない雨蛙を詠うのです。

SELECT

選者
山口 昭男
やまぐち あきお

1955年 神戸市生まれ。1980年「青」に入会。波多野爽波に師事。2000年「ゆう」入会。田中裕明に師事。編集担当。2010年俳誌「秋草」を創刊し主宰する。毎月発行。句集に『書信』『讀本』『木簡』がある。2018年句集『木簡』で読売文学賞受賞。日本文藝家協会会員。

【俳句の応募方法】
氏名・住所・年齢・明記のうえ、ハガキ、封書、FAX、下記の応募フォームのいずれかからご応募ください。

［宛先］
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘1-13-23
株式会社シティライフNEW　俳句係まで
FAX 06-6368-3505

［応募フォーム］
https://pro.form-mailer.jp/fms/f413b102177160

※締め切りは毎月25日必着　※いずれも一人5句まで
※掲載は次々号となります
※佳作は掲載をもって発表とさせていただきます。
※お名前と作品を掲載します。